

2019年2月1日

目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	相場 上昇の動き	p. 2-3
■ バター情報	欧州産と他産地の価格差残る	p. 3-4
■ カゼイン情報	相場 横ばい	p. 4-5
■ チーズ情報	愛 Glanbia 社と蘭 A-ware 社 工場新設 他	p. 5-6
■ ホエイ情報	相場 上昇傾向	p. 6
■ 乳糖情報	欧州は堅調 米国は潮目	p. 7
■ 国内情報	2018 年生乳生産量 増	p. 8-9
■ 主要生産国の現行乳価		p. 9
■ オセアニア情報	Lion Dairy and Drinks 社の買収入札 他	p. 10-12
■ 欧州情報	欧州酪農 環境への影響軽減のための活動 他	p. 12-13
■ 米国駐在員情報	穀物メジャーの一角 乳製品取引より撤退 他	p. 13
■ 中国情報	NZ 産粉乳 FTA セーフガード枠到達 他	p. 14
■ 出典		p. 15
■ 米国政府機関閉鎖の影響により、同国農務省発表の統計データは更新されていません		

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

■ 相場 上昇の動き

欧州

欧州産脱脂粉乳相場は引き続き堅調推移。1月に2度実施された政府介入在庫の放出入札においては、12月末時点の10万2,590トン全量が対象となり、合計9万8,938トンが落札され、残り3,652トンとなった。次回2月5日に実施される放出入札で介入在庫は底をつく事が濃厚となっており、これにより、脱脂粉乳の更なる価格上昇が進むと見込まれる。一方で欧州の生乳生産ピーク時期が4~5月である事から、その頃には供給量も確保され、落ち着くのでは、といった見解もある。

欧州産全粉乳の相場は依然としてオセアニア相場比較、高い。向け先は主に欧州域内に限られており、年々増加傾向にある。

オセアニア

オセアニア産脱脂粉乳の相場は大きく上昇している。オセアニアの生乳生産のピーク時期を過ぎ、脱脂粉乳の生産量が減少しており、また一部メーカーでは、生乳が全粉乳の製造へ優先的に回されている事もあり、脱脂粉乳の供給が限られてしまっている事が要因としてあげられる。脱脂粉乳の主要な輸入国である中国が米中貿易戦争により、報復関税を米国に対して設定した事で、米国からの輸入をオセアニアからの輸入に切り替えている事も影響している。中国における2018年1月~11月の脱脂粉乳輸入量は前年同時期比で、米国からの輸入が15.9%減に対して、豪州からの輸入は2.7%増、ニュージーランド(NZ)からの輸入は8.5%増となっており、オセアニア品の総輸入量としては、10.5%増となっている。

オセアニア産全粉乳相場は引き続き上昇しているが、全粉乳の最大の供給国であるNZの生乳生産量は好調に推移しており、今シーズンの生乳生産量は昨シーズン比5%増となる見込み。しかし、全粉乳の需要が旺盛でサプライヤーによっては4月積みまで売切れといった状況。

最新のGDTの結果は下記の通り。脱脂粉乳、全粉乳共に上昇。

(2019年1月15日開催、同年月2日比較)

脱脂粉乳 : USD 2,405/mt FAS(船側渡し価格)、+9.3%

全粉乳 : USD 2,777/mt FAS(船側渡し価格)、+2.7%

米国

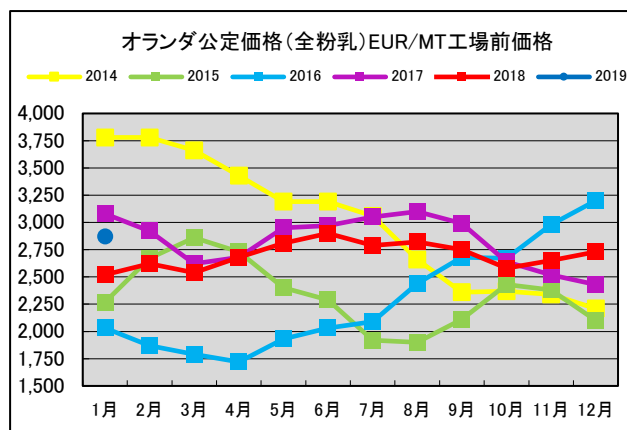
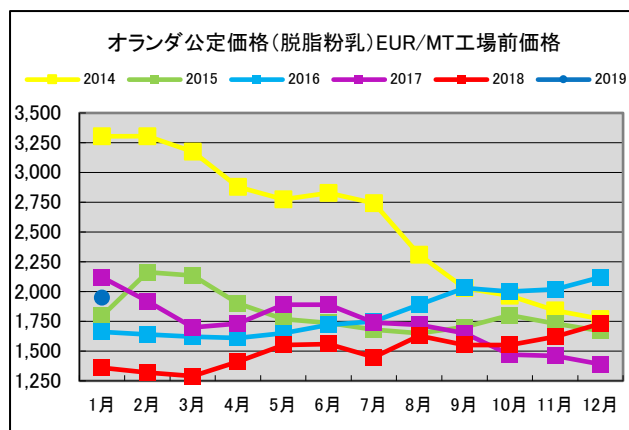
国のNFDM*の価格もオセアニア、EU同様に上昇している。米国内の生乳生産量は安定しているものの、需要が好調な為、相場上昇となっている。

*NFDM : Non Fat Dry Milk (たんぱく非調整脱脂粉乳)

今後の展望

脱脂粉乳の相場が大きく上昇した事で、需要者の動きが活発になっている。欧州政府介入在庫は来月にも底をつく見通しであり、そのタイミングでまた動きが生じる事が想定される。供給もタイトとなっており、当面の必要数量は早めに手配する事が賢明と言える。

全粉乳については、主な供給先であるNZの供給状況に依るところが大きく、現時点では同国の生乳生産量が好調である事から、相場への影響は大きくないものの、需要は引き続き好調な為、今後の動向に注視しながら前広に手配していく必要があると考える。



現在の粉乳取引価格

EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,400 – 2,800 /MT CFR ASIAN PORT
EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,400 – 4,000 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,500 – 2,900 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,100 – 3,450 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,500 – 2,700 /MT CFR ASIAN PORT

<中村>

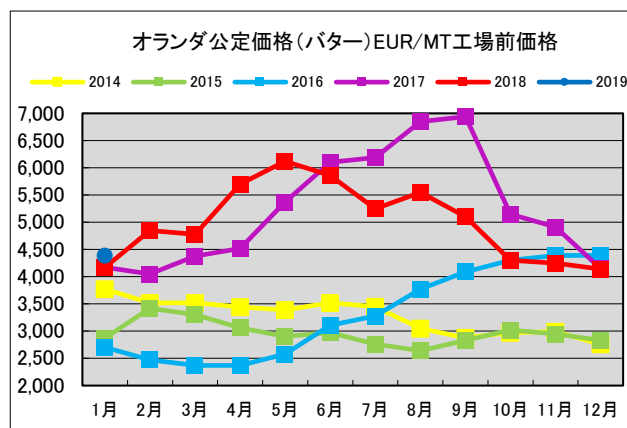
■ バター情報

■ 欧州産 価格差埋まらないまま

欧州

欧州の乳脂肪相場は2019年1月に入り、上昇に転じている。価格上昇の背景は、欧州バター及びクリームへの需要が堅調である事と強い需要に伴うクリームの調達コストの上昇の為である。今後欧州では春先にかけて生乳生産量が増加していく時期に入るが、現状欧州の生乳生産量は好調とは言えず、需要も先月から引き続き強い状況が続いている為、欧州産バター価格は短期的には横ばい、または若干強含みで推移すると考えられる。

2018年1~10月の欧州産バター製造量は昨年同時期比、12%増加しているが、輸出量は昨年同時期比で10%減少している。



オセアニア

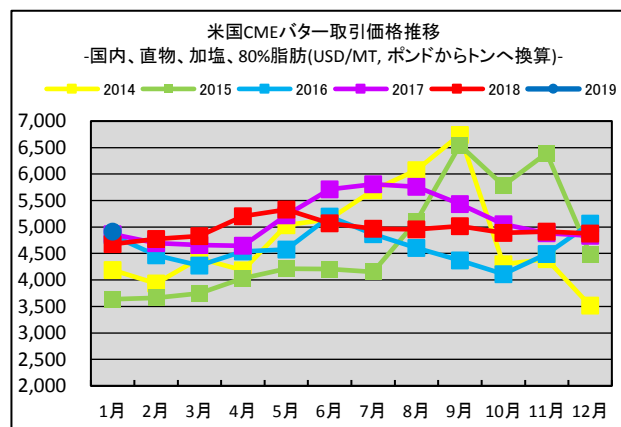
2019年1月のGDTオークションの結果は先月から引き続き上昇を続けている。2019年1月15日のバター平均落札価格はUSD4,262/MT FAS(船側渡し)となり、2018年12月18日の結果(USD3,928/MT FS)と比較すると8.5%の値上げとなった。AMFも同様に1月15日の平均落札価格はUSD5,294/MT FASとなり、2018年12月18日の結果(USD4,936/MT FAS)と比較すると、7.3%値上げとなった。

2018年12月のNZの生乳生産量は昨年同月比、6.1%増加している。日中は20～30℃まで温度が上がり、牧草の生育状況も良い為、供給面では不安はない模様。2018年1～11月のNZから豪州へのバター輸出量は2017年同時期比、22%増加している。

豪州の2018年1～11月のバター輸出量は昨年同時期比、3.2%増加しているが、輸入量も21.6%増加しており、乳製品の輸入割合が増加している。2018年7～10月の豪州の生乳生産量は2017年同時期比、4%減少しており、苦戦している状況。一方で豪州の乳製品国内消費は一定して伸びており、今後も供給力は限定的になると思われる。

米国

2018年1～10月の米国生乳生産量は2017年同時期比、1.1%増加しており、2018年1～10月のバター輸出量は昨年同時期比、79%増加している。米国産輸出バター価格の指標の一つとなっているシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)のバター価格は大きく変動しておらず、横ばいで推移している。



2018年12月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.14)

EU産バター価格

USD5,500～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS

NZ産バター価格

USD4,400～USD4,800/MT CFR ASIAN PORTS

豪州産バター価格

USD5,000～USD5,500/MT CFR ASIAN PORTS

米国産バター(無塩 82%脂肪)価格

USD4,800～USD5,300/MT CFR ASIAN PORTS

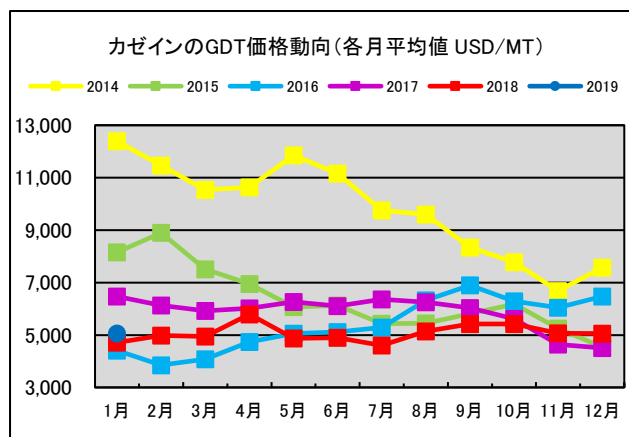
<林>

■ カゼイン情報

相場は横ばいが続く

カゼイン相場は前月同様に大きな変化は見られず、横ばいの状況が続いた。供給面では、カゼインの主要産地の一つであるニュージーランド(NZ)における12月の生乳生産量が、天候に恵まれ、昨年対比6.1%増となり続伸する結果となった。しかし依然として、全粉乳の生産が優先される傾向は変わらず、カゼインの生産量に特別大きな変化は見られなかった。もう一方の主要産地である欧州では、夏場の干ばつによる飼料不足の影響が大きく、カゼインの生産量増加も見られなかった。需要面では、特に大きな変化はなかった。結果的に、カゼイン相場は前月同様に横ばいであった。

今後、欧州では主要生産国での一つであるアイルランドで、好調な生乳生産を背景にカゼインの生産量増加への期待も高まる。しかし一方で、欧州全体で考えると飼料不足の影響により生乳生産量は落ち込むと予測され、結果的にカゼインの大幅な生産量増加は考えにくい。また、NZにおいても、生乳生産のピークは過ぎており、今後は生産量が減る局面であるため、大幅なカゼインの生産量増加には余り期待が出来ないであろう。現在、脱脂粉乳の相場が上昇基調にあることから、カゼインの相場も連動する形で上昇していくことが予測される。ただ需要面で大きな変動要因は見当たらないことを考慮すると、急激に相場が上昇する可能性は低いと考える。



レンネットカゼインの GDT 過去3カ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年11月6日	USD5,327
2018年11月20日	USD5,067
2018年12月4日	USD5,167
2018年12月18日	USD5,056
2019年1月2日	USD5,123
2019年1月15日	USD5,047

<柴崎>

■ チーズ情報

■ 米国の製造量 増加

USDA(米国農務省)によると、2018年のナチュラルチーズ製造量は587万8,000トンで、消費量は563万トンであった。2019年の製造量は2%増の599万2,000トン、消費量は4%増の583万1,000トンとなる見込みであると発表されている。

■ 2018年 中国輸入量 微減

2018年12月の中国のチーズ輸入量は、2017年12月比で57%増の約9,933トンであった事が発表された。12月単月では前年比で大幅増となったが、2018年通年は平均輸入数量ベースで前年比0.3%減となった。過去7年間は毎年二桁増と大幅な伸びを記録し続けていたが、統計開始以来、初めての前年比減となった。

中国のチーズ需要は年間およそ10万4,000トン～10万8,000トン程度であるが、需要拡大が安定期に差し掛かったという見方もあり、世界中で中国向けに製造能力を拡張してきたサプライヤーに大きな影響が出ると考えられる。

■ 愛Glanbia社と蘭A-ware社、アイルランドに工場新設

アイルランド Glanbia 社とオランダ A-ware 社は、アイルランド中東部の Belview に合併事業としてチーズ工場を新たに建設する事を発表した。投資額はおよそ1億4,000万ユーロ(約175億円)で、稼働開始時期は2022年を予定している。新工場の能力は生乳処理量で年間約45万トンとなる見込みで、エダムやゴーダ等の各種チーズを製造予定。生乳はアイルランドの工場周辺の酪農家より供給を受ける。

■ スターターカルチャー(乳酸菌)の製造量増加

Global Info Research 社によると、2017年の全世界でのスターターカルチャー(乳酸菌)の製造量は、2013年の4,491トンと比較して26%増加の5,678トン。その内およそ三分の一がチーズ製造用であるとされており、全世界の約45%がデンマークの Chr. Hansen 社製である。今後も向こう5年間は毎年6%程度ずつ市場規模が拡大し続ける見込みである。

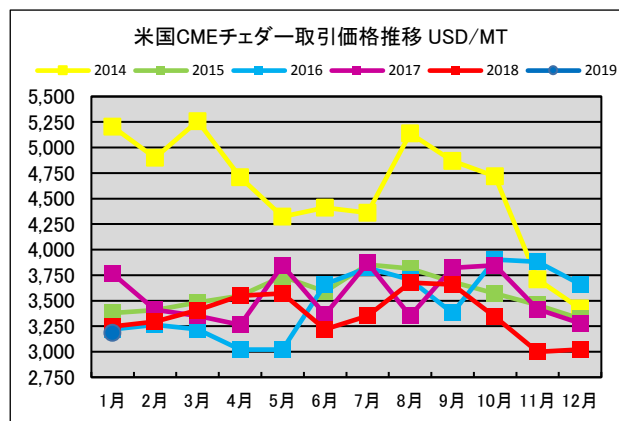
米国CME相場

2019年1月のCMEブロックチェダー スポット相場は、月中に多少緩んだものの29日時点でUSD3,186/MT(現地工場出し価格)であり、昨年12月末よりUSD150/MT以上の上昇となった。

一部サプライヤーでは既に4月船積みまでの契約が埋まっている模様。昨年11月から12月にかけて相場が大きく緩んだ際に、第1四半期積みの契約が集中した事が原因となっている。

例年、夏場に近づくにつれて相場が上昇する傾向があるが、サプライヤーの供給面に注意しつつ相場動向を注視し玉を確保する必要があると考えられる。

(為替レート EUR=¥125.00を使用)



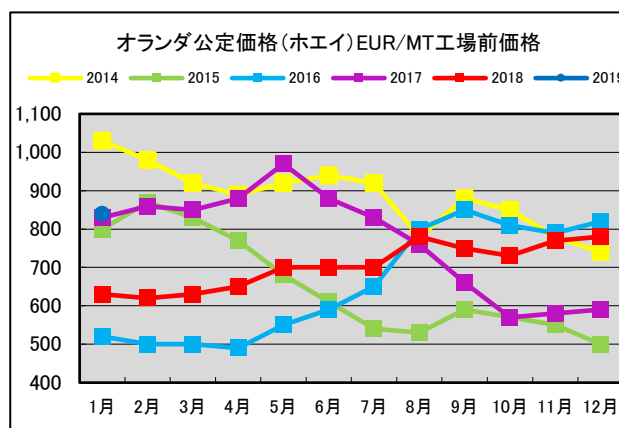
<近藤>

ホエイ情報

ホエイパウダー

米国産ホエイパウダーの相場は強含み傾向が続いている。チーズ増産が見られる地域も一部にはあるが、依然としてホエイパウダー需要は強く、在庫タイトな状況が続いている。

米中貿易戦争の影響と見られるが、2018年12月、中国向けアメリカ産ホエイパウダーの輸出量は、前年同月比43%の大幅な減少となっている。一部の市場関係者の見通しでは、米中の貿易協定の動きに敏感にならざるを得ず、中国向けのアメリカ産ホエイパウダーの引き合いが確実に減っている状況とのこと。今後の両国の追加関税処置の進捗には注視していかねばならない。



欧州産ホエイパウダー相場も上昇傾向。欧州域内では2018年8月から各月生乳生産量が前年割れしており、ホエイパウダーの供給不安が材料視され、引き合いが多くなっている。中国向け欧州産ホエイパウダーの需要が依然として強く、今後の相場の動きに注意する必要がある。

WPC34

米国産 WPC34 の相場も依然として上昇傾向にある。育児粉乳用途の需要が強く、引き続き在庫はタイトな状況が続く見込み。一部の工場では、高タンパクのホエイパウダーの需給のバランスをとるため、生産量を増やすことを検討している。

<深澤>

■ 乳糖情報

■ 欧州 米国で相場動向に違い 欧州は堅調も米国は潮目に変化

2018年日本向け乳糖通関統計

2018年通期の乳糖通関統計が公表された。輸入総量は昨年対比1%減の7万6,281トンと大きな変動は見られなかった。内訳については、EU域内からの輸入が振るわなかった一方、米国・カナダからの輸入が好調。結果として昨年対比ほぼ横ばいの結果となった。

欧州

欧州産乳糖相場は、昨月に引き続き上昇している。11月の生乳生産量は昨年同月比0.9%減、チーズ生産自体も同月比較減となった。そのため乳糖生産量自体も予想ほどは伸長しなかった。需要面では冬場の製菓用途での需要がピークを迎えたこと、また中国からの引合いも増加したこと、これらの結果引き合いは強く相場は強含んだ。

今後は製菓向け需要については一服が予想されるが、脱脂粉乳政府介入在庫が底をつき相場が上がり始めていることから、タンパク調整用での需要は高まりが予想される。また、米中の貿易摩擦の影響もあり、中国向けの引合いも徐々に増えており、引き続き堅調に進むものと思われる。しかし、先々欧州の生乳生産は季節要因による増加が見込めることから急激な上昇にはならないと思われる。また、中国向けは米中摩擦の動向によって状況が変わるため、注視が必要。

米国

1月の米国産乳糖相場に大きな変動は見られなかった。生乳並びにチーズ生産が安定していたことから乳糖の生産量自体は安定、需要面は冬場の製菓需要への引き合いは相場が上昇していたことから既に済ませた需要者が多く、1月については契約の履行にとどまり新規の引き合いは多くなかった。相場に影響を与える要因は多くなく、相場はほぼ横ばいであった。

在庫面では細かいメッシュの乳糖や育児粉乳向けについては引き合いが強く、在庫は減少をしているもの、

それ以外の未粉碎乳糖については徐々に積み増し或いは一時的に在庫を多く持っているメーカーもいる模様。今後については、引き合いの強い粒度の細かい乳糖・育児粉乳用乳糖についてのみ引き続きタイト感が見られ、それ以外の乳糖については徐々に相場が反転・緩やかな下落に進んでいくものと予想される。

	2017	2018	(%)
オランダ	7,601	6,351	-16
フランス	1,563	1,288	-18
ドイツ	16,555	13,746	-17
カナダ	2,836	3,917	38
米国	43,055	45,741	6
豪州	0	0	-
ニュージーランド	3,431	3,293	-4
その他	1,980	1,944	-1
合計	77,021	76,281	-1

米国からの乳糖輸出量累計(2018年1-10月)

1. 中国	76,892 トン
2. メキシコ	34,442 トン
3. 日本	34,189 トン
4. ニュージーランド	33,061 トン
5. インド	14,887 トン
6. ベトナム	14,705 トン
7. 韓国	13,080 トン
輸出量総計	309,965 トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2018年10月)

乳糖生産量	43,263トン	前年比 8.3%減	前月比 3.2%減
月末在庫	41,599トン	前年比 34.3%減	前月比 9.8%増

※米国乳糖輸出量、生産量、在庫量については米国農務省関係各所のシャットダウンの為情報更新がされておられません。先月と同じ情報を掲載させていただきます。

<作田>

国内情報

2018年全国生乳生産量 増産

生乳生産

農林水産省が発表した2018年12月の全国生乳生産量は60万9,805トン。前年同月比0.2%減、4ヶ月連続で前年割れとなった。地域別では北海道が33万3,248トンで同0.8%の増である一方、都府県は27万6,557トンで同1.3%の減となった。

2018年1～12月の全国生乳生産量は729万2,520トンで前年比0.2%増。2016年以来2年ぶりの増産となった。北海道の生乳生産量は396万3,246トンで同1.8%増であったが、都府県は332万9,274トンで同1.6%減。北海道胆振東部地震の影響により、9月の北海道の生乳生産量は前年比4.9%減と大幅減であったが、その後の生乳生産量は堅調に推移し、最終的には前年比増加となった。その一方、都府県の生乳生産量減産傾向に歯止めはかかっておらず、一刻も早い都府県の生乳生産回復が求められる。

2019年4月1日以降の飲用向け乳価は1キロ当たり4円の値上げとなった。値上げは4年ぶりとなる。また、2019年度の生乳入札については2018年度より2万トン多い、7万トンの入札が実施される。

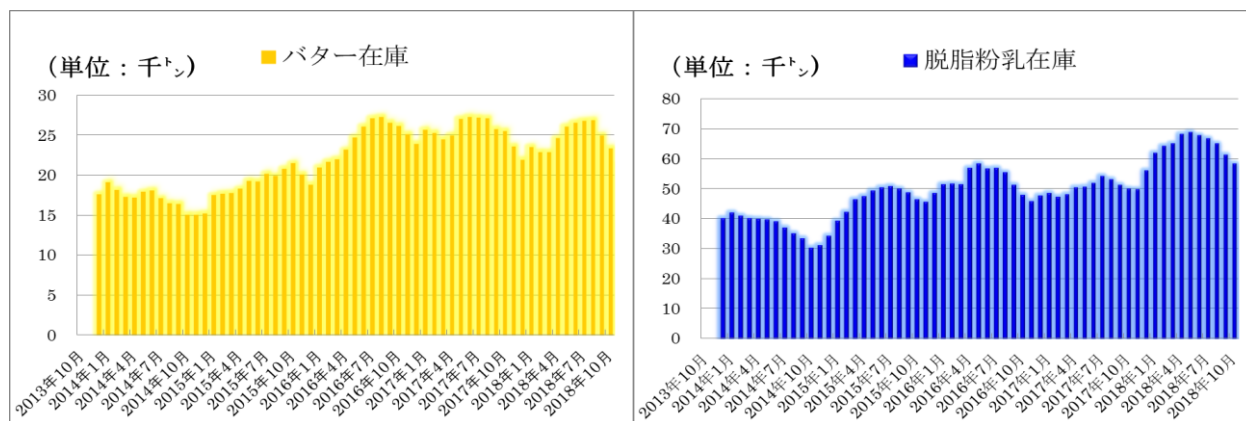
バター

農林水産省が発表した2018年12月のバター生産量は、5,460トンで前年同月比3.1%増、在庫量は2万111トンで同8.4%減となっている。農畜産業振興機構(ALIC)は、1月17日に1,181.3トンのSBS入札を実施。応札数量は4,723.4トン、競争倍率4.00倍となり前回入札時(5.93倍)から一旦落ち着きをみせた。売渡結果の落札平均価格は104万3,883円/トン。

2019年1月30日、農林水産省は2019年度の輸入枠数量を設定したと発表。バター2万トン、脱脂粉乳2万トンと設定された。基本的にバターは毎月、脱脂粉乳は隔月で輸入入札を実施予定。引き続き国産バター供給に余裕のない状況が続いており、今後の入札においても一定量の応札があるとの見方が強い。

脱脂粉乳

農林水産省が発表した2018年12月の脱脂粉乳生産量は1万2,592トン。前年同月比2.0%増となるが、在庫量は6万1,223トンで同9.2%増と、依然として高い在庫水準にある。2018年12月に実施された6,000トンのSBS入札においては、落札数量は947トンで落札率は16.0%に留まった。脱脂粉乳の2019年度輸入枠数量は2万トンと設定されたが、在庫は依然として潤沢との見方が根強く、バターとは対照的にそこまで競争は激化しないのではとの見方が強い。



2018(平成30)年度 単月生乳生産量 (単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け		乳製品向け	その他
			内業務用		
12月	610	315	28	291	4.0
前年同月比	99.8%	99.5%	97.6%	100.1%	98.6%

2018(平成30)年度、バター需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,613	99.1%	18,740	120.0%	26,551	97.2%	4.1
第2四半期	12,736	101.1%	17,462	113.6%	25,025	92.5%	3.9
第3四半期	12,967	96.4%	17,892	65.9%	23,300	106.2%	3.6
第4四半期	17,200	99.6%	17,500	92.4%	26,200	102.8%	4.1
合計	59,516	99.0%	71,594	92.9%	26,200	102.8%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成30)年度、脱脂粉乳需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,103	98.3%	22,272	60.8%	67,847	126.3%	5.5
第2四半期	25,509	100.9%	39,904	111.2%	61,352	115.6%	5.0
第3四半期	28,987	95.8%	40,639	132.1%	57,600	102.7%	4.6
第4四半期	33,300	99.7%	35,400	78.0%	63,400	126.5%	5.1
合計	119,899	98.6%	138,215	93.0%	63,400	126.5%	5.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<土屋>

■ 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥100.71/㍗	2018年11月	¥97.69/kg※2
ドイツ	¥47.89/㍗	2018年11月	EUR37.16/100kg
オランダ	¥48.01/㍗	2018年11月	EUR37.25/100kg
アイルランド	¥48.88/㍗	2018年10月	EUR37.93/100kg
米国	¥41.37/㍗	2018年9月	USD16.70/100ポンド (100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥35.74~36.35/㍗	2018/19年度	AUD5.85~5.95/100kg MS(乳固形kgあたり)※3
NZ	¥34.80~36.54/㍗	2018/19年度	NZD6.00~6.30/100kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥125.00 USD=¥109.00 AUD=¥79.00 NZD=¥75.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 HP EU:European Commission HP 米国:CLAL HP 豪州:当社調べ NZ: Fonterra HP

■ オセアニア情報

■ Lion Dairy and Drinks社(LDD社)の買収入札

キリンホールディングス傘下の豪州乳業部門 LDD 社の買収入札は第二段階へ突入した模様。16日付け豪州ファイナンシャル・レビュー紙で報道された情報によると、買収候補の会社の中で第二ステージに突入した会社が幾つか有り、第二ステージに進まなかった他の企業は今後の動向を見守りつつ LDD 社事業の一部でも獲得できないかを模索している模様。

日本のビール会社・アサヒは第二ステージに入っていると見られており、LDD 社のリーディングブランドであるチーズ(King Island、Southcape Cheese など)、牛乳(Dairy Farmers、Pura Milk など)、ヨーグルト(Yoplait、Farmers Union など)、乳飲料(Big M、Dare など)、フルーツジュース(Berri など)など全ての事業買収に動いていると見られている。当初アサヒと共同入札を検討していた豪州乳業会社 Bega 社は本件からは撤退したと見られている。Bega 社は2017年ベジマイト買収、2018年の旧 MGC 社 Koroit 工場買収で企業規模は大きくなり、株価は一時高騰したものの2018年後半の増資後に下落を続けており、機関投資家や株主からの反対圧力によって本件の撤退を決めたと思われる。アサヒは共同入札のパートナーを失ったものの全ての事業買収に意欲を見せており、飲料事業以外のチーズ、ヨーグルトなどの事業を他社に売却できる十分な自信があるか、公にしていない新しい乳業関連のパートナーがいるのではと予想されている。豪州上場企業である Coca-cola Amatil 社も第二ステージに進んでいると思われる。食品製造会社 Freedom Foods 社をパートナーとして共同入札をすると思われる。Coca-cola 社はフレーバーミルク事業のみの取得を計画しており、牛乳事業は Freedom Foods 社に委ねると見られている。その場合、残りのチーズやヨーグルト事業は、Saputo 社や Parmalat 社(フランス Lactalis 社)など乳業会社を買収に動く予想されており、Sapuro 社がチーズ事業を、Parmalat 社がヨーグルト事業を買収するという見方が強い。一方、Saputo 社に関しては豪州において更なる投資を行う前に、旧 MGC 社の立て直しで結果を出してからという声も上がっている模様。旧 MGC 社の各工場は集乳量を大きく落としており、過去のように十分な利益を確保するには当面の時間がかかると未だ見られている。

■ 豪州 11月生乳生産量アップデート

Dairy Australia が11月の豪州の生乳生産量を公表した。豪州全体の生乳生産量は昨年同月比7.8%減となっており、シーズン累計では4.8%減少にて推移している。豪州主要生産地のビクトリア(VIC)州の生産量は、11月が昨年同月比9.6%減で累計では5.5%の減少にて推移している。VIC 州の中でも、北部は特に減少が激しく、11月単月で20.3%減となっている。ニューサウスウェールズ(NSW)州は単月が12%減となっており、累計では9.5%の減少となっている(詳細は下記表参照)。1月に入り降雨量は引き続き低水準で推移しており、また気温も高温が続いている。今後の生乳生産量の減少に拍車がかかるのではないかと危惧されている。

-豪州ビクトリア(VIC)州の降雨量 2019年1月24日現在(mm)-

	1月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	3.6	35.4	38.9	-90.7%
Warmambool (西部)	4.6	12.4	34.9	-86.8%
Bairnsdale (東部)	13.6	47.4	58.8	-76.9%
Albury (北東部)	21.2	30.6	38.2	-44.5%
Melbourne	4.6	65.4	43.6	-89.4%

- ニュージーランド(NZ)主要都市の降雨量、2018年12月 (mm) -

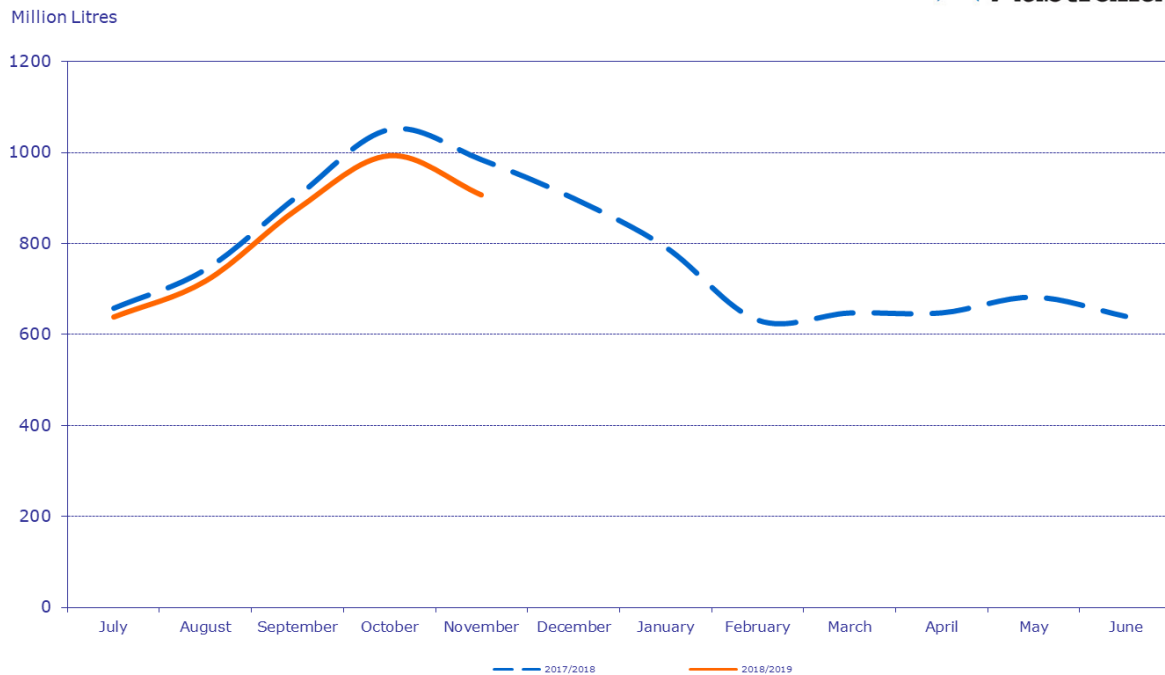
	12月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	記録なし	13.0	88.0	-
Taranaki (北島)	75.4	23.0	126.0	-40.2%
North Canterbury (南島)	68.8	37.8	47.0	+46.4%
Southland (南島)	41.8	57.3	93.0	-55.1%

- 豪州生乳生産量 -

単位: 百万リットル

	18年11月の生乳生産量 (前年同月比)	18年7月～累計 (前年同時期比)
NSW	90.1 (-12.0%)	466.3 (-9.5%)
Victoria	587.1 (-9.6%)	2,732.1 (-5.5%)
Queensland	31.2 (-13.4%)	165.2 (-10.0%)
South Australia	48.9 (+2.2%)	221.3 (+3.5%)
Western Australia	34.6 (-1.8%)	166.5 (-1.5%)
Tasmania	115.5 (+1.8%)	383.9 (+4.1%)
Australia	907.4 (-7.8%)	4,135.3 (-4.8%)

Australian Milk Production - National Total
2017/18 & 2018/19



出典: Dairy Australia HP

- ビクトリア州の地域別生乳生産量 -

単位: 百万リットル

	18年11月の生乳生産量(前年同月比)	18年7月～累計(前年同時期比)
東 部	215.9 (-4.2%)	923.1 (-2.3%)
北 部	158.8 (-20.3%)	755.7 (-13.1%)
西 部	212.3 (-5.5%)	1,053.2 (-2.3%)
ビクトリア州全体	587.1 (-9.6%)	2,732.1 (-5.5%)

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd. 松本>

■ 欧州情報

EU政府 脱脂粉乳介入在庫売り渡し・買い入れ状況

1月は2度、脱脂粉乳介入在庫の放出入札が実施された。

1月8日に行われた1度目の入札では、入札対象数量10万2,590トンに対して11万9,933トンの応札があり最低落札価格はEUR1,554/mtで8万424トンが落札となり、1月22日に行われた2度目の入札では入札対象数量2万2,166トンに対して3万876トンの応札があり最低落札価格はEUR1,585/mtで1万8,514トンが落札となった。買入札は実施されなかった。次回入札は2月5日に実施され、対象数量はインターベンション在庫残り全量となる3,651トンを予定している。

EU介入在庫放出入札結果(単位:MT)

入札日	入札対象数量	応札数量	落札数量	応札価格	最低落札価格
2018年1月16日	101,061	25,764	1,864	EUR 700~1,350	EUR 1,190
2018年2月20日	99,196	35,465	4,337	EUR 650~1,270	EUR 1,110
2018年3月20日	95,079	37,712	4,127	EUR 501~1,121	EUR 1,050
2018年4月17日	90,952	91,855	24,066	EUR 501~1,705	EUR 1,051
2018年5月15日	115,112	124,360	41,958	EUR 500~1,277	EUR 1,155
2018年6月19日	144,844	39,836	23,532	EUR 995~1,400	EUR 1,195
2018年7月17日	121,315	27,768	2,408	EUR 958~1,200	EUR 1,125
2018年8月28日	118,907	64,207	31,493	EUR 905~1,401	EUR 1,230
2018年9月18日	154,797	52,325	8,983	EUR 1,045~1,350	EUR 1,230
2018年10月2日	145,814	36,812	2,499	EUR 1,050~1,280	EUR 1,230
2018年10月16日	143,315	61,355	29,778	EUR 1,050~1,300	EUR 1,231
2018年11月6日	159,686	62,887	30,068	EUR 1,095~1,327	EUR 1,251
2018年11月20日	130,471	85,127	26,082	EUR 1,223~1,401	EUR 1,313
2018年12月11日	163,127	180,658	60,537	EUR 1,235~1,535	EUR 1,451
2019年1月8日	102,590	119,933	80,424	EUR 1,282~1,676	EUR 1,554
2019年1月22日	22,166	30,876	18,514	EUR 1,451~1,721	EUR 1,585

■ 欧州酪農 環境への影響軽減のための活動

欧州酪農協会は、欧州の酪農部門が国連の持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals、以下SDGs)を達成する上でどのような役割を果たしているかについて纏めたファクトシートを発表した。国連のSDGsは世界を持続可能で回復力のある未来へと導くための普遍的な課題の一部であり、経済・社会・環境の3つの側面から、貧困を終わらせ、人々の生活を改善し、子孫のために地球を守ることを目指し、17のカテゴリーを設け計169個の目標を定めている。乳業業界に対する最大の批判は「温室効果ガスの排出量が多いこと」であり、欧州酪農協会はこれを認めた上で、今後とも継続して温室効果ガス削減に取り組んでいくとしている。世界の温室効果ガス排出量のうち酪農業が占める割合は2.7%と大きい。しかし、生乳1kgあたりの二酸化炭素排出量は、世界平均が2.4kgであるのに対し欧州では1.5kgと大幅に低い。これは近年欧州の酪農業界が地球温暖化への影響を軽減すべく、飼料の改良、糞尿管理の改善、特に乳牛1頭当たりの生乳生産量向上による飼育頭数の削減に注力してきたことによる。2000年には年間5,484kgであった1頭当たりの平均乳量は2016年には6,906kgにまで増加しており、これにより乳牛頭数を減らし、結果として気候への影響を軽減出来た。さらに土壌からの炭素隔離を促進する効率的な農場管理を行うことにより温室効果ガスの発生を大きく削減できる可能性があるとしている。

＜アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V.吉田＞

■ 米国駐在員情報

■ CWT(Cooperatives Working Together)を利用した米国産乳製品の輸出量(2018年)

CWT(酪農協同基金)はメンバーの酪農家によって積み立てられた基金を利用した輸出促進プログラムにおいて2018年に米国から輸出された乳製品の合計数量につき、2018年12月24日付けで下記の通り発表した。

チーズ	: 32,915トン
バター(脂肪82%)	: 7,900トン
全脂粉乳	: 18,886トン

主な輸出先はアジア、中東、北アフリカ、中南米、オセアニアとなっている。

■ 穀物メジャーの一角、ルイ・ドレフュス社が乳製品取引より撤退

穀物メジャーの一角に数えられるLous Dreyfus Company(LDC)社は2019年1月16日付けプレスリリースにおいて今年半ばを目処に乳製品取引より撤退する事を発表した。同社は2009年に乳製品分野に参入し、2012年には乳製品トレーダーとして80年以上の実績を持つEcoval Dairy Trade社を買収し業容拡大を図ったものの、求めた結果を得るには至らず、肥料事業、金属分野に続いての撤退となった。オーストラリアの合弁先企業が運営する乳製品工場への一部出資は残される見込み。

※2018年12月の生乳生産量、11月の主要乳製品生産量ならびに在庫量に関する統計データは米国政府機関閉鎖の影響により農務省発表のデータが更新されておりませんので次号にてお伝え致します。

＜ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤＞

中国情報

ニュージーランド産全粉乳・脱脂粉乳FTA、1月2日にセーフガード枠到達

1月3日付の中国税関の発表によると、1月2日時点で、ニュージーランド産全粉乳及び脱脂粉乳の輸入申告数量は21万5,575トンに達した。この数量は2019年の中国-ニュージーランドFTA協定における当該商品の2019年数量上限16万2,482トンを大幅に上回る数量であり、結果として1月3日以降申告の当該貨物に関しては通常関税率の10%が適用されることとなった。同FTA協定では、2019年より全粉乳及び脱脂粉乳の関税率は0%となるが、2023年まではFTA税率が適用可能な数量に上限が設けられている。2018年もFTA枠は1月4日に埋まっており、年初に枠が埋まる傾向ではあったが、2019年は過去最も早く枠が埋まった。その他品目も、バターが1月3日時点で制限数量の1万6,077トンに達し、1月4日より通常関税率の10%が適用されている。

中国-ニュージーランドFTA 年次別上限数量・税率表

	脱脂粉乳・全粉乳			バター		
	数量(トン)	税率	枠到達日	数量(トン)	税率	枠到達日
2017	147,376	1.7%	1月11日	14,582	0.0%	1月11日
2018	154,745	0.8%	1月4日	15,312	0.0%	1月5日
2019	162,482	0.0%	1月2日	16,077	0.0%	1月3日

2018年12月中国乳製品輸入量

脱脂粉乳	20,585トン	前年同月比	70%増
全粉乳	40,571トン	前年同月比	104%増
チーズ	9,930トン	前年同月比	57%増
WPC/WPI	3,178トン	前年同月比	191%増
ホエイパウダー	44,270トン	前年同月比	5.7%減

2018年12月の中国の乳製品輸入量はホエイパウダーを除き軒並み前年同月比増となった。脱脂粉乳の輸入量は2018年9月以来4ヶ月連続で前年対比増となっている。直近では欧州産脱脂粉乳の需要が増加したためその在庫が減少、相場を押し上げる要因の一つとなった模様。

チーズの輸入量は2018年の合計では2017年と比較し0.3%減となった。過去7年間で中国の年間の輸入量がマイナスに転じたのは初めて。2018年12月の輸入量は前年比増となったが、今後需要が回復するか、市場の動向は注視したい。

ホエイパウダーはアフリカ豚コレラの影響もあり、飼料向けの需要が減少している模様で、輸入量は前年対比減となっている。米国産のホエイパウダーは報復関税の影響で2018年12月の輸入量は前年同月比43%減となっている。

<在上海 Lacto Shanghai Co., Ltd. 今野>

■ 出典

経済日報
食品産業サイト
食品産業網
長三角乳業
《中国乳业》杂志 乳业资讯网
東方ネット
日刊酪農乳業速報
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
Australian Financial Review
Dairy Australia
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
Global Trade Information Service
IEG Vu Dairy
NZ Herald
Rice Dairy
Stuff.co.nz
USDA's Dairy Market News
USDEC Export Trade Data
Weeklytimes

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。

2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。

3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。

作成 : 株式会社ラクト・ジャパン
編集 : 乳製品情報編集部
問合せ先 : webmaster@lacto-japan.com